

参考資料① 都市公園の種類と身近な公園の配置の考え方

札幌市環境局みどりの推進部みどりの管理課

1 札幌市内の都市公園の種類

種類		対象とする利用者、設置目的など	標準面積	具体例
住区基幹公園	街区公園	主に公園周辺の約250m圏内の住民を対象とした公園	0.25ha (体育館くらい)	
	近隣公園	主に公園周辺の約500m圏内の住民を対象とした公園	2.0ha(小中学校のグラウンドくらい)	新琴似中央公園 北園公園など
	地区公園	徒歩圏内の住民を対象とした公園 スポーツ施設、休憩施設を設置	4.0ha(小中学校の敷地くらい)	北郷公園 吉田川公園など
都市基幹公園	総合公園	市民が総合的に利用できる公園 休息、鑑賞、散歩、運動等を目的	10～50ha	円山公園 中島公園など
	運動公園	野球場、テニスコート、陸上競技場、プール等の運動施設を主とした公園	15～75ha	手稲稲積公園 厚別公園など
特殊公園		自然環境や景観を守ったり、史跡・名勝、動植物に親しむための公園		大通公園 札幌芸術の森など
都市緑地		都市の自然環境の保全、景観向上のための緑地		茨戸川緑地 山口緑地など
緩衝緑地		大気汚染、騒音等の防止のための緑地		星観緑地
緑道		歩行者・自転車の安心した通行、災害時の避難経路の確保等を目的とする帯状緑地	幅員10～20m	
広域公園		主に1つの市町村を超えた広域の利用を目的とした公園		道立真駒内公園、 国営滝野すずらん丘陵公園

- 住区基幹公園は、子ども達の遊び場、地域の憩いの場等としての機能を持った公園であり、住宅地においては、特に必要な公園と位置付けて整備を進めてきました。
- これらの公園は多くの住民にとって、最も身近にある公園となっており、一般的に「身近な公園」とも呼ばれています。
- 住宅地の開発に際しては、特に必要な公園であるため、次頁の標準配置モデルに基づいて整備を進めてきました。

【地区公園の例】 太平公園



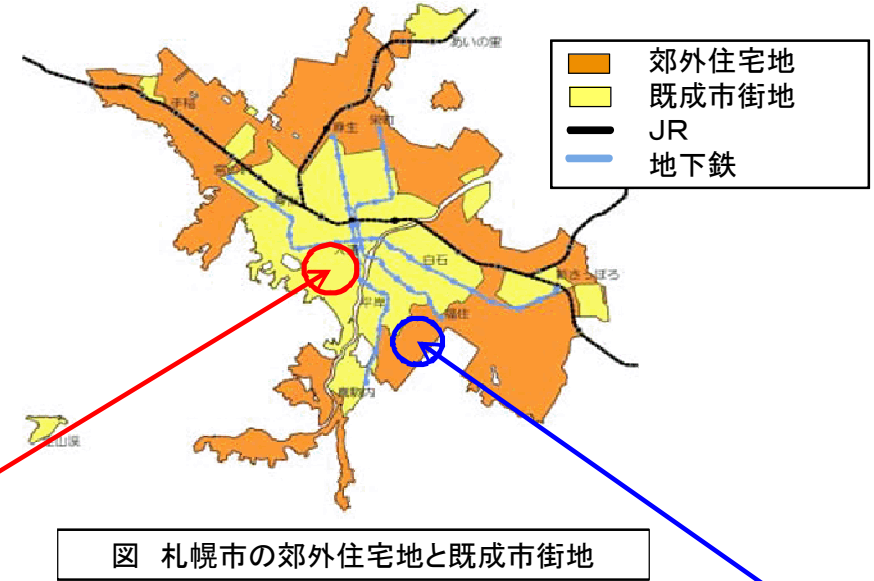
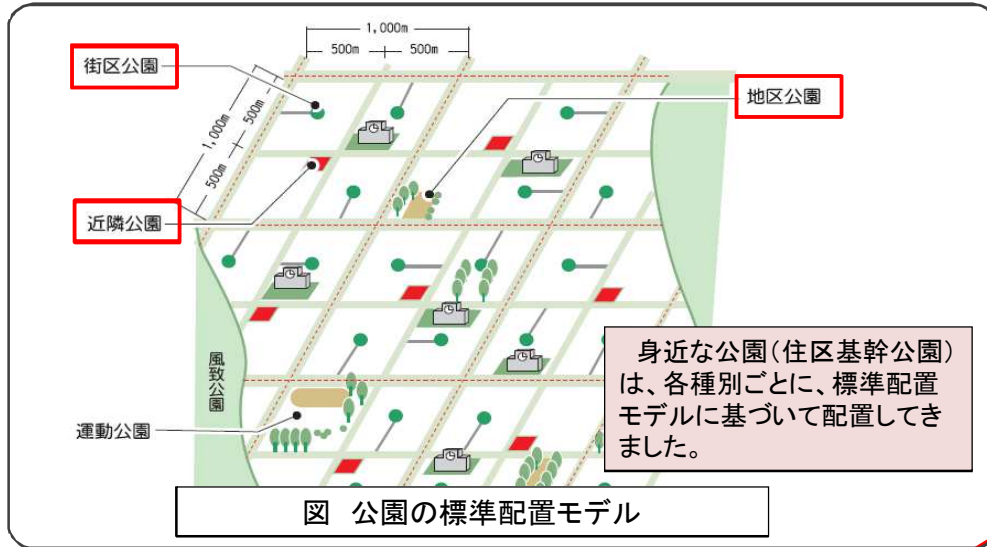
【街区公園の例】 篠路三角公園



【近隣公園の例】 屯田ひがし公園



2.これまでの身近な公園の配置の考え方と実際の配置状況例



既成市街地の一例



・身近な公園がバランス良く配置されていない

→古くから建物や施設が密集している地域であり、公園配置モデルに基づいて、計画的に公園を配置することが難しい。

郊外住宅地の一例



・身近な公園がバランス良く配置されている。

→この地域の整備が始まった当時は、まだ住宅地開発が進んでおらず、公園配置モデルに基づいて、計画的に公園を配置することができた。